

Brass Band World

Japan

～冬の号～

第19号(季刊/年4回発行)

2014年11月25日発行

日本ブラスバンド指導者協会

編集担当: 西田裕

guide@musictown.jp

“ニック・チャイルズ氏来日”

福田昌範(洗足学園音楽大学プリティッシュブラス企画運営責任者)

去る、10月下旬から11月上旬にかけて、ブラックダイクバンド指揮者のニコラスチャイルズ博士が洗足学園音楽大学プリティッシュブラスバンドの演奏会のゲストコンダクターとして来日されました。

昨年に引き続きの来日で、今回はブラックダイクバンドのテナーホーン奏者であり奥様のアリソンチャイルズさんと一緒にいらっしやいました。この来日の前に、ブラックダイクバンドはイギリスでのプリティッシュオープン優勝、ナショナルブラスバンドチャンピオンシップ優勝、とダブルタイトルを獲得しての来日となり、私たち教員も生徒たちも興奮気味にお迎えすることとなりました。(奥様はチャイルズ氏ご夫妻の結婚25周年ということもあり、ご旅行を兼ねた初来日となりました。)

今回は、洗足学園プリティッシュブラスの第40回記念演奏会でした。プログラムも、第一部「ハリソンの夢」(P.グレアム)、第二部「交響組曲ラメセス二世」(阿部勇一)、第三部「ローマの祭り」(レスピーギ)、という大曲に意欲的に取り組みました。チャイルズ氏には第一部、第三部を、第二部は山本武雄先生に指揮を振っていただきました。(アリソンチャイルズさんには、サプライズで第三部の演奏に加わっていただきました。)

第一部はオリジナルの基本編成(28名)で行って



おり、前回の第39回演奏会では「宇宙の音楽」(P.スパーク)を、そして今回は「ハリソンの夢」という日本の吹奏楽でも有名な曲に取り組みました。これらは私たち教員一同の数年来待ち望んでいた曲でもありましたが、学生たちはチャイルズ氏のご指導の下、大変意欲的に取り組んで大変な熱演を成し遂げてくれました。第二部の

「ラメセス二世」は私が以前アンサンブルファンファール(長野)の皆さんとレコーディングした曲で、CDも発売されております。(プレーン・OSBR-29003)その曲を、100名を超えるブラスバンドを山本先生の素晴らしいご指導で感動の世界に導いていただきました。第三部の「ローマの祭り」は大変な難曲で、チャイルズ氏も精力的にサウンドを整えていただきました。「ここは、人数を減らして」「ここはオクターブ下げて」「ここはこの音で行こう」などなど、様々な試みをしていただき、総勢約130名の素晴らしい演奏となりました。

ブラスバンドとしての音楽の運び、サウンドの作り方、練習方法など、本場のご指導はいろいろな意味で学ぶべきことが多々あるように感じました。これからも、本場イギリスとの交流を深めるとともに、様々な楽曲に学生たちとともにチャレンジしていきたいと思えます。